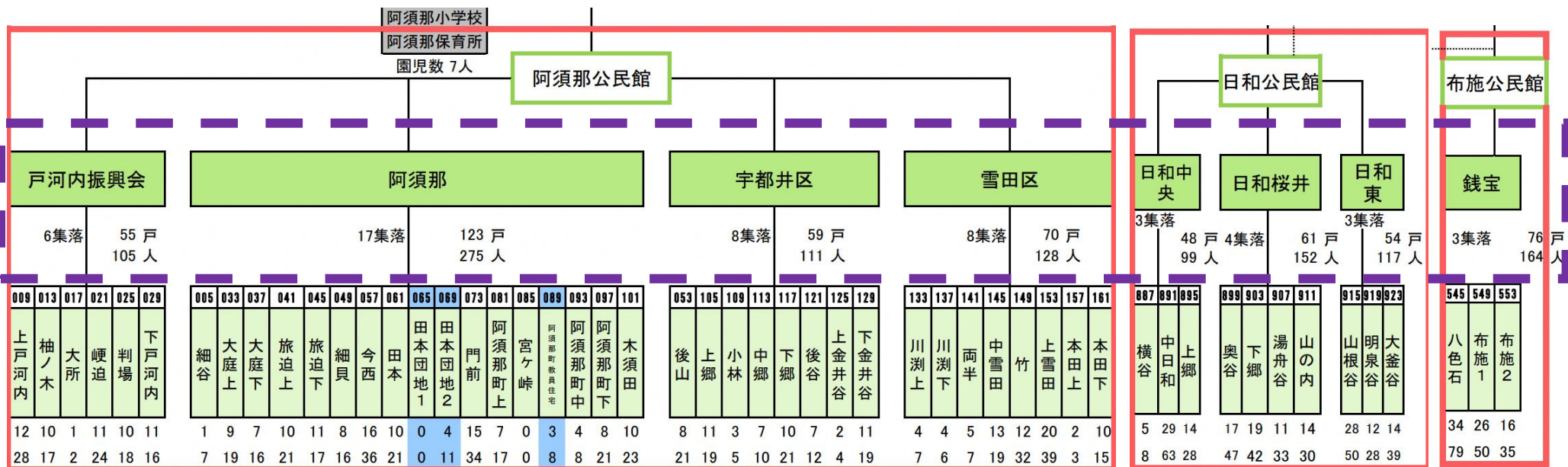


2階層の組織形態となるうえでの検討事項は？（その1）

1. 現行の自治会の範囲をどうとらえるか？

☞ 地区（公民館）を範囲とする組織が設立された場合、現在の自治会はどうか



2 階層の組織形態となるうえでの検討事項は？（その 2）

2. 自主防災組織はどうするか？

【現在】

☞ 邑南町の自主防災組織は自治会の範囲で 38 の組織が設立されている

2. 組織の規模

自主防災組織の規模としては、一般的に次のように考えられている。

- 住民が連帯感を保ち、地域の防災活動を効果的に行える程度の規模であること
- 地理的状況、生活環境からみて、住民の日常生活上の範囲として一体性を有する規模であること

自主防災組織の規模については、「自分たちの地域は自分たちで守る」という目的に向かって、自主防災活動を効果的に行うことができる規模が最適であり、地域住民が日常生活上の一体性を感じることできるような規模が望ましいと考えられる。

参考までに平成 28 年 4 月 1 日現在の自主防災組織の規模をみると、全国平均で一組織あたりおよそ 287 世帯であり、主に町内会単位を基準とする場合が多くみられる。

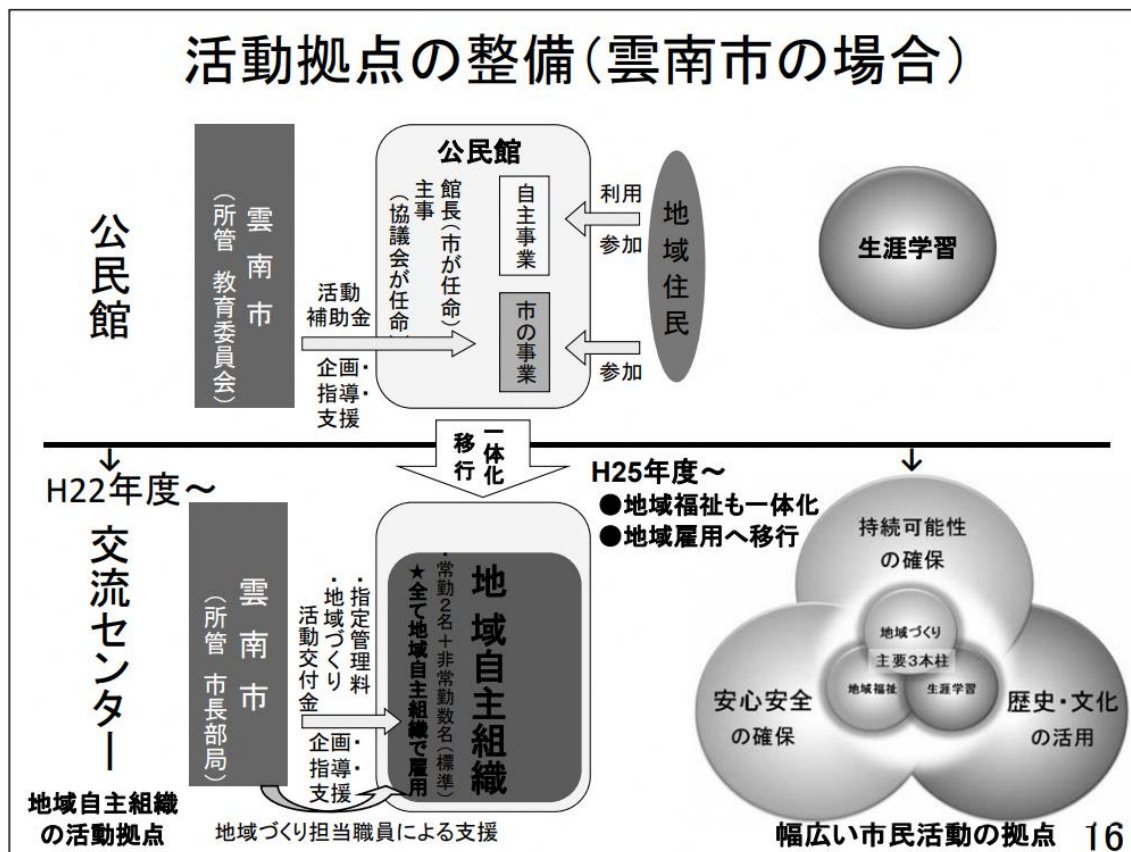
2階層の組織形態となるうえでの検討事項は？（その3）

3. 現公民館との関係はどうか？

【雲南市の例】

☞公民館（建物）：地域運営組織の活動拠点「交流センター」に変更

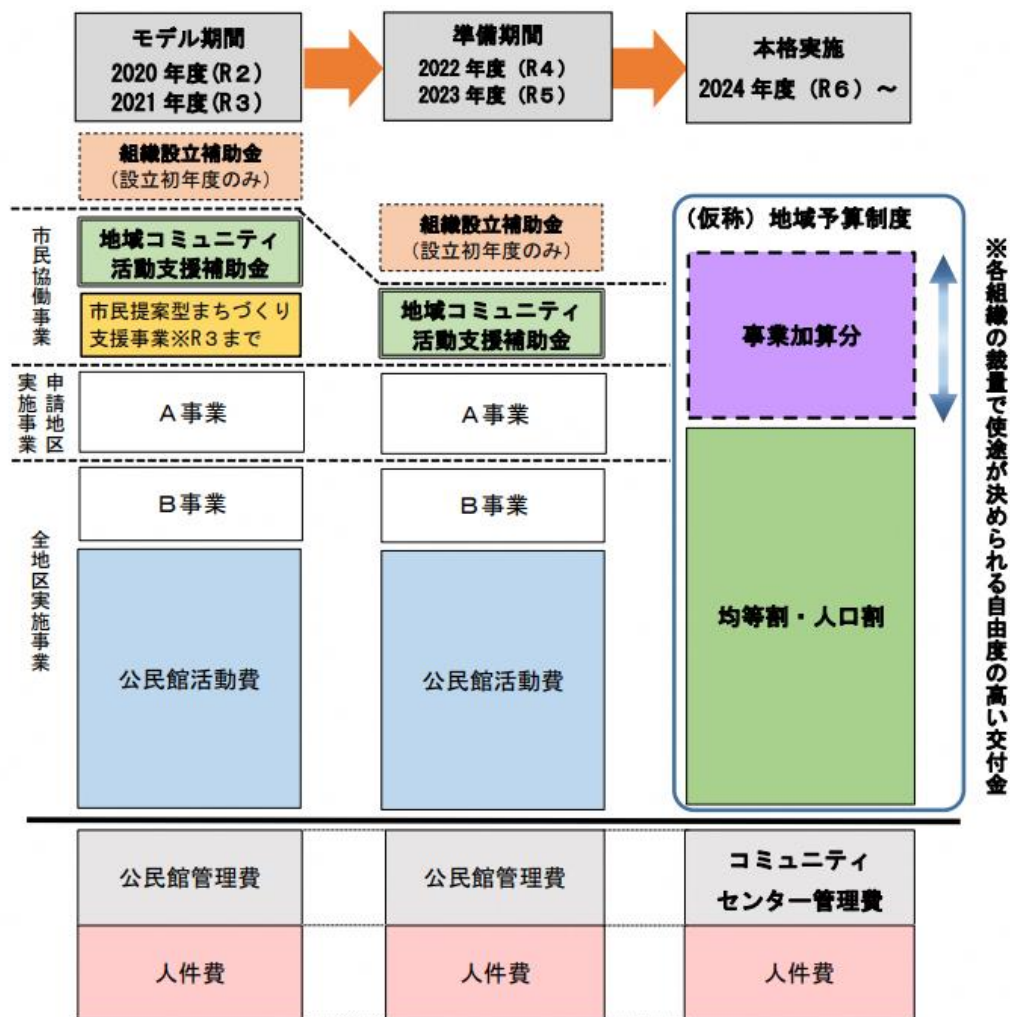
☞公民館（機能）：地域づくり担当職員が地域運営組織の活動を支援



2階層の組織形態となるうえでの検討事項は？（その4）

4. 一括交付金のあり方はどうなることが望ましいか？

地域の裁量で自由度高く活用できる予算とすることが考えられる



出典：白山市「市民協働で創るまちづくりあり方方針」